

地域の底力を信じ、市民一人一人をローカルヒーローに!

NPOと市民をつなぐ機関誌

まはる

特集

SDGs と NPO



- まんまるニュース
- Myストーリー NPO法人長野県NPOセンター 山田千代子さん
- まんまるの新NPO紹介 NPO法人市民成年後見ネットワーク長野
- お宝ざくざく地域を掘り起こせ! 川中島・更北・篠ノ井
- まんまるイベントスケジュール



SDGs ジャパン

SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



パタゴニア



白馬村



フードバンク信州

2019
春号
No.20

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

特集 SDGsとNPO

最近テレビや新聞で目にする「SDGs（持続可能な開発目標）」は、2015年9月、国連のサミットで採択された「貧困をなくそう」「働きがいも経済成長も」「質の高い教育をみんなに」「海の豊かさを守ろう」など、2030年までに達成する国際目標です。地球上の誰一人取り残さないというスローガンを掲げ、17のゴール（目標）と169のターゲット（さらに詳細な目標）・具体的な指標が定められています。

日本では、一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク（SDGsジャパン）が2013年から先頭に立つて動いてきました。2018年8月現在、NPO・NGOなど1000団体が参加。政策提言、広報・普及、調査・研究など、政府や企業と連携しながら、SDGs実現のための活動を展開しています。

長野市周辺ではどんな動きがあるのか見てみましょう。

NPO法人フードバンク信州 SDGsと団体のミッション

フードバンク信州は、2015年10月、長野県生活協同組合連合会、長野県NPOセンター、長野市社会事業協会などが協働で立ち上げました。

は米国で生まれ、もともと農産物の過剰生産の解決策として、余剰を政府が買い上げて貧困者に再配布する事業でした。日本では生活困窮者支援

のため、東京や山梨などで民間が取り組みを始め、全国に広がってきました。

事務局長の美谷島越子さん（表紙写真）は、以前生活困窮者支援に従事。フードバンクと出会い「制度では救えない人たちの存在と、一方で大量に廃棄されていく食品の問題（＝フードロス）を一緒に解決できる方法がある」と知ります。そして、現在は食品

メーカーや生活困窮者支援の



一般家庭から食品を集める
フードドライブの様子



送られる直前の食品

窓口とも連携しながら、食べ物が必要な人（団体）に提供



里山ウェルネス研究会

協働でいくつもの課題を同時に解決

里山ウェルネス研究会は、昨年3月に立ち上がりました。飯山市を拠点に森づくりや里山体験と福祉の連携によって、地域の暮らしと健康を守る活動をしています。

昨年から、地域の間伐材を活用した「ログファイヤー」作りに取り組んでいます。丸太の皮をむき、切れ目を入れたもので、着火して暖を取ったり、料理をしたりと使い方はいろいろ。その工程の一部



ログファイヤー用丸太の皮をはがしています

を就労支援施設に精神障害者が担っています。

この事業は、環境省の「平



成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」を活用して実施しています。扱う材木は人工林のもので、良質の材木が出にくく、活用の方法が限定されてしまったもの。一方福祉施設側は、男性利用者の活動の場



白馬村

SDGsでワークショップ。5月にフォーラム開催！

白馬村では図書館の建設に向け、昨年秋「SDGs」を題材に高校生を含めた参加者22人でワークショップを3回開催

しました。その様子を白馬村副村長藤本元太さん（表紙写



▶ワークショップでSDGsの17のゴールにアイデアを落とし込みました

を必要としていました。活動はスタートしたばかりですが、うまく進めば、森を守り、資源を活かし、障害者の働く場を確保するという複数の課題解決が実現します。

会のメンバー余頃友康さん（よこひらともやす）は、「今後も今までにない視点で福祉との連携を模索していきたい」と話しました。

裏」と、担当の渡邊宏太さんに聞きました。

1回目は、国内外の図書館の動向を学んだうえで、村にあつたらしいものについてアイデアを出し合い、SDGsの17のゴールに分類しました。2回目には参加者が周囲の住民からの聞き取った内容を共有。「冬季に増える外国人長期滞在者の学びの場が不足している」「一定の不便さも健康づくりに必要では」などの意見がでました。

3回目は、機能についてアイデアを出しました。「図書館の敷地を歩き回ること健康促進できる場」「外国人と交流でき、多文化や言語を学ぶ場」「木質バイオマスなどの活用の場」「官と民、異世代、多文化をつなぐ図書館」



パタゴニア白馬店

自然の変化を身近に感じて

パタゴニアはアウトドアスポーツウェアの世界的企業です。「私たちは、故郷である地球を救うためにビジネスを営む」をミッションに掲げ、環境問題を解決するための手段としてビジネスを位置付けています。

日本国内に22店舗、白馬店は2013年に出店しました。「フィールドで自然の変化を感じられる店はこのだけ」とストアマネージャーの波多野仁晴さん（表紙写真）。

出店以来、白馬店として市民団体の環境活動を支援。地域のプレイヤーや市民団体などとの人脈もできてきました。

環境社会責任者を置き、スタッフ16人が3つのグループに分かれ、気候変動などの勉強会など、SDGsに合わせたカテゴリーにアイデアを集約しました。

「村のビジョン、多様性、交流、学び合い」を大事にして計画を検討したい」と渡邊さん。また「SDGsについても地域と協働して取り組ん



▶店内には気候変動について学んだ社員手作りのボードが展示されています

で行きたい」と藤本さん。

5月18日（土）には、地域の団体や白馬高校などと連携して、環境ジャーナリストの枝廣淳子さんや海外からのゲストを招き、気候変動に関するシンポジウムを開催します。



新田英理子さん

富山県高岡市出身。1998年4月より日本NPOセンターの専従有給スタッフとして活動。2014年8月から事務局長(2017年3月末で退任)。2018年4月より現職。日本NPOセンター特別研究員。



スペシャルインタビュー

一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク事務局長代行 **新田英理子さん**
「SDGsは世界中すべての人の共通言語」

SDGsジャパン事務局長代行・新田英理子さんに聞きました。

SDGsが国連で採択されてから、動きの早い団体は積極的に取り入れようとしています。北海道下川町は90%が森林という町で、人口は3千人。コンパクトシティ、エネルギー自給率90%を実現するため、住民が17のゴールと169のターゲットを一つ一つ読み解いて議論。下川町版SDGsを作りました。東京都板橋区の「NPO法人たすけあいセンター」は、「社会教育関係

.....

者や社会福祉協議会と協働で「SDGsいたばし」のついでに「SDGs」を開催。2030年までに誰も置き去りにしない・されない地域を目指して議論を重ねながら、ネットワーク組織の設立に向けて活動を始めています。

SDGsのそれぞれのゴールとターゲットを読み込んでみると、一見関係ないように見えることが根底でつながっていることがわかります。たとえば、ゴールの5は「ジェンダー平等を実現しよう」ですが、その中には農家での女性の土地所有に関するジェンダー平等を実現するための指標があります。また、ゴール2「飢餓をゼロに」のターゲットには、雇用の平等によって小規模生産者・農業者の所得倍増をすることがうたわれています。どのゴールも自分たちに関係ないとは思わずに関心をもってほしいです。

NPOは、新しい制度や目標など、国連や政府から降りてきたものをただ受け取るのではなく、それを引き寄せ、学びながら、自分たちのために「SDGs」を活用する姿勢でいいですね。世界中の人の共通言語SDGs。2030年の世界から何を読み取るのか、本気で自分たちの地域の課題について考え、議論する

ことが求められています。

最近では、SDGsカードゲームが活用されていますが、ゲームを入口にして、「その先どうするのか？」が大切です。まずは、仲間と共にSDGsを学んでみてはどうでしょうか？ 自分たちの活動がSDGsのどのゴールと関係があるのか、世界のどこにつながっているのか、考えてみてもらいたいです。

SDGs一つ一つの目標を見ると、すでに私たちが「なんとかしなければ」と思っている内容ばかりです。改めて視覚に訴えるデザイン、文字になったことで、世界中の人たちと目標を共有できたと考えられるのかもしれない。長野県でも、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けて「SDGs未来都市計画」を策定しています。しあわせ信州創造プラン2.0（長野県総合5か年計画）の推進もSDGsを意識し、「誰一人取り残さない持続可能な社会づくり」を目指しています。

当センターも、主催する事業はもちろん、他の団体との連携・協働事業でも、SDGsに関連付けながら企画していきます。また、学び場も提供しますので、ぜひご参加ください！



新田さんおススメの2冊。「基本解説 そつだつたのか。SDGs」(SDGsジャパン発行)と「私たちが目指す世界」(公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン発行)。まんまるにもあります

参考サイト

- 外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>
- 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク <https://www.SDGs-japan.net/>
- 国連広報センター(動画) <https://www.youtube.com/user/UnicTokyo>
- NPO法人フードバンク信州 <https://foodbank-shinshu.org/>
- 里山ウェルネス研究会 <https://www.eco-online.org/satoyama-wellness/>
- 長野県SDGs未来都市に関するページ https://www.pref.nagano.lg.jp/kikaku/kensei/shisaku/sdgs_miraitoshi.html



これでいいのか？ イベントデザイン

当センターでは、活動者のためのスキルアップ講座『NPOステップアップ講座』を、毎月違うテーマで実施しています。



2月は「企画のデザイン手法」。フアシリテーション・ラボ信州代表の河合宗寛さんを講師に迎え、参加者それぞれがイベント企画を振り返りながら、より効果の上がる企画づくりのポイントを学びました。

「まずはねらい（目的）を設定し、達成に必要な条件を洗い出し、具体的に何をどう行うのかを決定していくことが重要」と河合さん。ねらいの設定ポイントは、活動・成果目標を会員の感情にひびく言葉で文章化することだそうです。また、企画段階で前年度の実績を分析すること（評価指標）が大切で、評価のポイントはイベント内の参加者の反応・変化、イベント後の日常への転移度合と費用対効果の4つ。その上で、①ニーズの探索②施策の検討③参加者の分析④利害関係者のステークホルダー化をしていく手法を示しました。

「企画を整理して考え



るよい機会になった。団体の強みを活かした企画づくりをしていきたい」と好評でした。次回開催は、12月頃を予定しています。



参加型のアクティブな講義をする河合さん

「シェアリングエコノミー」

シェアリングエコノミーとは、場所・乗り物・モノ・人・お金などの遊休資産をシェアする新しい経済の動きのことです。宿泊サービス Airbnb などが話題となる中、3月1日観光関係者や学生など20人が集まりました。

観光客に家庭で食事を提供するシステム「airKitchen」と、ベジタリアン向け「airKitchen plus」を昨年開始した村瀬裕太さんを招きました。きっかけは、米国で家庭の味に触れ、日本でも外国人観光客に体験してほしいと感じたこと。また日本に来る観光客の4・7%がベジタリアンでその食事が課題です。市民が空いた時間とキッチンを使って、外国人に食事を直接提供できれば、そこに交流も生まれると思いついたのです。



後半には、参加者がシェアリングエコノミーをインバウンドにいかにか活用するかについて、グループで知恵を出し合い、意見を共有しました。最後に村瀬さんが「思いついたアイデアをぜひ行動に！」と参加者を励ましました。



#08

My
ストーリーNPO法人長野県NPOセンター
代表理事 山田千代子さん

「自分を突き動かすのは、理不尽なものに対しての怒り」と話す山田さん。「原点は戦後の貧しい時代、食べられない子どもたちが周りにたくさんいたこと」。当時は困った人におにぎりを振舞ったり相談に乗ったりしていたといいます。

結婚後、夫の転勤で岡谷市に。子育てをしながら「社会とつながりたい」と点訳ボランティアを始めます。当時「支援制度がほとんどなく、障害者が厳しい環境に置かれている」と気づきます。「私になんとかしなければ」と長野市に移転してすぐに県社会福祉協議会の門をたたきました。時は1981年国際障害者年。若手職員や市民活動家たちが集まり、ボランティア活動への機運が高まっていました。そして緑町で民家を借りてボランティア活動の拠点「どんぐりの家」の立ち

この活動が礎となり、市ボランティアセンターの設立につながり、山田さんは県下で第1号のボランティアコーディネーターとなります。そこで9年働く中で「女性が政策決定の場になかなか関われない」と感じ一念発起し、市議員となりました。

2009年「もう一度市民の立場から活動したい」と現職に。同時に長野大学で社会福祉を学び、卒論「高齢者の貧困」を書き上げました。「貧困が悲劇を生む」と、現在は困窮者支援や、こどもの居場所づくりにも取り組んでいます。自身の使命を次の世代にバトンタッチしたいと願いつつ、今日も社会の課題に立ち向かい続けています。

上に山田さんもお加わります。子育て中の母親、障害者、お年寄りの居場所として365日開所し、ボランティアの輪が劇的に広がっていったのです。



プロフィール

やまだちよこ 74才 夫と2人暮らし。自家農園で野菜作りも。

団体情報

NPO法人長野県NPOセンター
〒381-0034 長野県長野市大字高田1029-1 エンドウビル1F
TEL:026-269-0015 FAX:026-269-0016

新 NPO紹介

まんまるの!

NPO法人市民後見ネットワークながの

代表の宮澤一江さんは、「社会保険労務士など専門性をもつ会員も増え、さまざまな相談にも対応できる態勢が整ってきているので、ぜひ深刻な状況になる前に相談してほしい」と話します。

NPO法人市民後見ネットワークながの
メールアドレス：
shiminkouken.nagano@gmail.com
HP：https://s-k-n-nagano.jimdofree.com

NPO法人市民後見ネットワークながのは、2014年10月に設立し、4年後の9月に法人化しました。判断能力が十分ではない高齢者や障害者などが、生活上、不利益を被らないように、成年後見制度の利用促進をしています。

年に1回、成年後見制度に関する財産管理や働き方をテーマにしたセミナーを開催し、被後見人に加え、地域包括支援センター職員の参加も増えています。



成年後見制度に関わる講演会の様子

子どもを中心に 地域をつなぐ 居場所

2016年、犀川の南岸三本柳地区の住民有志が集まってスタートした「さんぼんやなぎプロジェクト」は、活動拠点『にっこりひろば』で行うさまざまな企画を通して、地域内外の人々のつながりを生み出しています。

毎週月・木曜日には、学習支援「チャージ！」を実施。親世代のボランティアのみならず、手作りおやつで出迎え、小学生以上の子ども達の放課後の居場所になっています。

NPO法人ITサポート銀のかささぎの協力でiPadを使った学習会も定期的に行っていて、子どもたちに好



三本柳小学校のすぐ側にある「にっこりひろば」

評です。

「多くの人たちの力でここは支えられている」と代表の岡宮真理さん。月一回開催する「さんぼんやなぎ食堂（こども食堂）」のほかに、地域の人を講師にして学ぶ講座や、子育て・孫育ての悩み相談会、手づくり交流会、衣類交換会など、多世代にわたる事業を展開。夏休みには、こども食堂の校内実施など三本柳小学校とのコラボ企画も予定しているそうです。

活動継続に向け、企業協賛や個人寄付など資金面でのサポートを募集しています。

さんぼんやなぎプロジェクト
TEL 080-3418-0088

お宝 ザクザク 地域を 掘りおこせ!

川中島
&
更北・篠ノ井



2017年12月、ウエルシア薬局川中島店に憩いの場「ウエルカフェ」が開設されました。続いて昨年7月に篠ノ井小森店、9月に篠ノ井布施高田店でもオープン。ウエルカフェは井戸端会議・地域活動・文化活動の場など、地域の誰でも無料で利用できます。また、ウエルカフェ内には机や椅子だけでなく、チラシラックや掲示版、作品棚もあるので、地域やNPOの情報発信の場としても利用できます。

川中島店では、住民、地域福祉ワーカー、住民自治協議会役員など含め30人が参加し、地域に開かれたウエルカフェの活用方法について考えまし

「地域の憩いの場」が ドラッグストアの中に!

た。そこでできたつながりから、お茶のみサロンを行う自主グループも生まれています。

篠ノ井布施高田店では、3月14日、篠ノ井高校とウエルシアが協力。世代間交流ができるスペースにするためのワークショップを開催しました。参加した生徒からは「高校生が飲み物を提供し、多様な人々が集まり、意見を出し合えるようなカフェ、しのカフェ」をつくりたい」と提案がありました。



篠ノ井高校の生徒がアイデアを出しました!

△利用のための問合せ先▽
川中島店026-291-0681
篠ノ井小森店026-299-8251
篠ノ井布施高田店026-299-7038



市民協働サポートセンター スケジュール

2019年

4月▶

6月



タイトル	日時	会場 / 費用	内容
NPO初歩講座 きほんのき 「NPOってなあに？」	4月27日(土) 13:30-16:00 6月26日(水) 18:30-21:00	市民協働サポートセンター 300円 定員: 10人	NPOについて知りたい、法人を設立したいという人もまずはこの講座から始めましょう。NPOの言葉の意味から市内NPO法人の活動紹介まで。4月は土曜午後、6月は水曜夜の開催となります。
NPOステップアップ講座 「広報のいろは ペライチでホームページを作ってみよう！」	5月19日(日) 13:30-16:30	市民協働サポートセンター 1人300円 定員: 15団体 持ち物: パソコン	簡単にホームページが作れる「ペライチ」は、1ページまでは無料のNPOにはありがたい存在。その社員である大原康弘さんを迎えて、実際にホームページを作ってみます。ペライチと他のSNSなど上手な使い方や検索にひっかかりやすいキーワードのことなどちょっとした裏技も紹介します。この機会にチャレンジしてみませんか？
NPOステップアップ講座 「広報のいろは Google マイビジネスを使って情報発信！」	6月8日(土) 13:30-16:00	市民協働サポートセンター 1人300円 定員: 15団体 持ち物: パソコン	Google マップで検索すると現れるその場所の詳細な情報。見たことがある人も多いと思います。もともとはビジネスのために考えられたサービスですが、NPOの情報発信のツールとしても有効です。その機能を学んで使ってみましょう！ 講師: ソーシャルデザインセンター岡田義彦さん
NPOカフェ まんまる NPOカフェまんまる 「定年後は何をする？」	5月25日(土) 13:30-16:00	市民協働サポートセンター 無料 定員: 15人	退職後の生き方について考える男性のための交流会です。すでに活動している人も、どうしようか迷っている人、もうすぐ定年を迎える人も参加OK！家庭に帰ったお父さん！「定年後の楽しみ」について一緒に話しませんか？
NPOカフェ まんまる NPOカフェまんまる 「すみっこ革命→キフカッションしよう！」	6月1日(土) 10:30-13:00	市民協働サポートセンター 無料 定員: 15人	NPOやボランティア活動にとって欠かせない寄付について考える交流会です。「寄付したことある？」「どうやったらうまく集まる？」みんなで一緒に考えてみませんか？ 奇想天外なアイデアをひねり出して長野に寄付文化のウェーブをおこそう！ 企画協力: 長野県共同募金会

★ 新 スタッフ紹介 ★ これからまんまるで働くスタッフをご紹介します！

戸井田 由奈

1986年7月2日生まれ。千葉県出身。結婚して長野に移住。体力と根性に自信あり。なにごとにも、きっかけは小さな気づき。その気づきを大切にしています。みんなの気づきを糧にして、話に花を咲かせてみませんか？



藤澤 善博

1958年生まれ。長野市出身。会社員時代にシニア大学専門コース(ビジネスコース)で定年後のシニアの居場所をテーマに学習しました。その後退職し昨年NPOに転職しました。シニア世代の楽しい生き方をシニア目線でいっしょに創造していきます。



笠原 弘江

1997年9月20日生まれ。現在、長野大学企業情報部に所属しています。高校時代は、長野シニアリーダーズクラブに所属し、子ども会活動を運営するお手伝いをしていました。情報発信の分野や、講座の中で、皆さんとかわっていきたくて！ よろしくお祈りします！



はココに! 機関誌まんまる設置場所募集!!

楽茶れんが館

善光寺の門前郵便局の向かい側にある、ひときわ目を引くレンガの建物で、神戸の異人館を思わせるたたずまいです。この建物は明治45年に建てられ、105年の歴史がある登録有形文化財です。運送屋、郵便局、物産館、喫茶・レストランと姿を変えながら長年愛されてきました。店内は少人数グループでゆっくり語り合えるテーブル席と、一人で楽しめるカウンター席があります。

機関紙まんまるは、入り口近くのレジ横にハンドメイドの商品と一緒に置いてあります!

営業時間10:00~18:30 ランチ11:30~13:00 デイナーは予約制。不定休。

長野市大門町 67-1 TEL:026-231-6001 FAX:026-231-6020



編集後記

桜と花粉の季節です。〇十年前、「花咲く頃の憂鬱」というお芝居があったっけ。脚本家の渡辺えりさんは、ご自身が花粉症だったことからこのタイトルがついたと聞きました。この時期、お天気のいい日に布団を干すと花粉症の家族に迷惑がられますが、ふわふわのお布団に勝るものはないんですね。(寝るの大好き♪ままりん)



発行 / 市民協働サポートセンター まんまる
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052
〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぷら座 3F
e-mail: npo@nagano-shimin.net
ホームページ: http://nagano-shimin.net/